



2024年
2月29日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



— 広針混交の豊かな森づくり活動 —

会員数：個人176名 法人12社
(2024年1月末現在)

雪化粧の木下沢梅林 (2017年2月)



雪に覆われ、ほんの一瞬だけの特別な美しさを見せる高尾の冬。
歩む者に他の季節では味わえない違った魅力と驚きを与えてくれます。



ツルリンドウ

北海道から九州の山地の樹陰に分布する多年草のつる性植物。
紫色をおびたつるは地面を這い他の植物などに絡まり長さ40～80cmになる。
8～10月に葉腋に淡紫色で先の5裂した花をつける。
花が終わると楕円形の実をつけ、実は先端に花柱が残り紅紫色に熟す。
絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>





2024年 会の活性化に向けて

代表 大塚哲生



日頃より当会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて今年の3月末には、小下沢林道の第一ゲートからベース小屋までの復旧工事が完了する見込みです。つまり本年は、コロナ禍以前の活動を取り戻す2年目であり、当会の活動をより一層活発化出来る年となると期待しております。ところで沢繋がり最近、方丈記の冒頭の一節「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」が心に浮かびます。会員の皆様におかれましては、このもとの水にあらずに習い、当会活動にご興味を持っていただけた方にお声がけいただくと共に、例えば今まで参加されていなかった当会のイベントに参加、或いは運営に携わっていただき、新たなメンバーの方々と共に当会活動の活性化を目指してゆきたいと存じます。

以上、これまで折に触れてお願いしております事の繰り返しとなりますが、今後も当会の活動を楽しく続けられますように引き続き、関係各位及び会員の皆様のご参加とご支援をお願い申し上げます。



日本山岳会 自然保護全国集会報告

代表 大塚哲生

当会設立の母体である日本山岳会の自然保護委員会から要望を受け、コロナ禍の影響も有り、4年ぶりに同委員会と当会との共催にて「人と森とのかかわり」をテーマに2023年10月21～22日の二日間、同委員会の全国集会を高尾エリアで開催した。日本山岳会からは13支部2委員会より44人参加。当会からはフィールド見学のサポート役として23人が参加した。

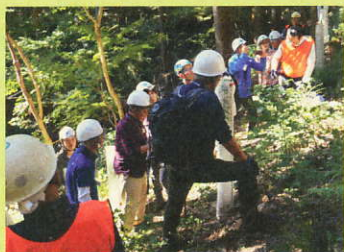
初日はタカオネ（京王高尾駅近郊）にて、哲学者内山節氏による基調講演と支部報告を行った。内山氏が信仰しておられる修験道は、山を神仏として捉え、山頂は神が宿る聖域とみなす。その姿勢は、欧米型の山頂を制覇するというスタイルではなく、自然を受け入れ、共に生きるという日本的なもの。講演後はフモトヤに移動し、参加者による活発な自然保護論議が交わされた。

翌日は当会の森づくり活動エリアである小下沢国有林および都府林を見学。また、当日は参加者が当会の提供する胸に舌鼓を打ち、フィールド見学後も笑顔が溢れる内に幕を閉じた。

当会にとって「森づくりは人が自然にかかわる貴重な、そして、心安らぐ活動である」と再認識する機会となった。



日本山岳会
橋本会長



都府林植栽地見学



都有林プロジェクトの5年

2018～2023

元都有林プロジェクトリーダー
日比野克彦



西尾根測量



4の沢の作業



作業終了後 親子植栽地下にて

高尾の森づくりの会は2001年、日本山岳会自然保護委員会の人たちによって結成されました。こげ沢国有林に針広混交林を作り50年後にはその割合を50%に持ってゆくという壮大なものでした。しかし2012年頃より森林管理署による利用間伐、列状間伐も木材価格の低迷もあって、これまで会の中心活動である植樹が出来なくなり、間伐を中心とした育樹に方針変更せざるを得なくなりました。会の最大のイベントである大規模な植樹祭は2015年が最後となり、2016、17年には育樹祭が実施されました。

■ 都有林での活動

植樹を行うためには新たな植栽地を見つける必要があります。こげ沢林道の東屋からゲートまでの林道左岸は都有林です。ここで活動しているボランティアも時々見かけます。都の産業労働局OBの山仲間を紹介して頂き、2017年3月東京都産業労働局と「木下沢都有保安林における自主的な森林整備活動に関する協定書」を締結。これを踏まえて都有林プロジェクトを開始しました。3の沢から4の沢への12haが協定区域となりました。

■ 植栽地探し

都有林も国有林と同じように急な斜面が多いので、高齢者の参加のために林道から近い、比較的傾斜の緩

い、間伐の跡地やギャップ地を探すために苦労しました。植樹祭を行った4の沢の列状間伐の跡地はGoogle Earthの衛星画像から探し出したものです。

■ 作業許可申請に苦労

ここは保安林なので、森林法に定められた様々な申請書類を作成する必要があります、この方面には全くの素人である私たちには大変高いハードルでした。森林事務所の方々に教えていただき何とか保安林内作業許可書をいただき作業開始となりました。(2018年3月)

■ 台風19号、新型コロナ感染症

なんとか親子森林体験スクールに植栽地を提供できるまでになりましたが、2019年10月、台風19号によりこげ沢林道は大きく崩壊し車で入ることができなくなりました。さらにコロナのために不要不急の外出は原則禁止となり会の活動レベルも大きくダウンしてしまいました。そんな時期も都有林プロジェクトは少人数で植栽地づくりを行い、4の沢に道具小屋を建て、2022、2023年には植樹祭を行うことが出来ました。

しかしここで鹿の食害の問題が発生しました。それまで植樹をしていなかったのが気が付かなかったと思われれます。食害対策が新たな作業に加わりました。コロナによる活動自粛も終わり、2024年の植樹祭は板当



3の沢
台風19号の
あと



4の沢 道具小屋前で

で実施されます。植樹祭を中心とした会の本来の活動スタイルに戻りつつあります。

高齢者には近場での植樹の要望もあり都有林での植樹も必要です。1月末に都の森林課から3の沢左岸を作業エリアとして追加する許可も下りました。現在の12haに加え5haが追加されます。

■ 植樹を中心とした活動を

木を植えることはCO₂の削減に大きく貢献します。SDGsの活動そのものです。こげ沢に広針混交林を作るという会の創設者達の大きな志を実現するために、今後も植樹祭を中心とした活動を進めてゆく必要があります。

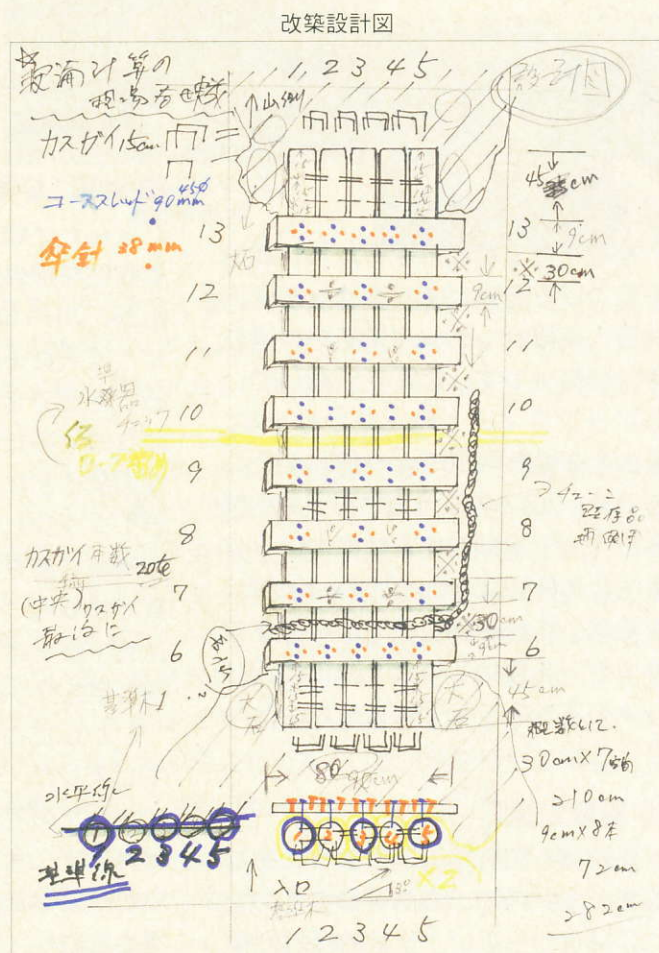


環境整備班 小山圭司

小下沢ベースから大ケヤキ、景信山に至る登山道の小下沢に架かる丸太橋は2015年12月から2016年1月にかけて設置したので丸8年が経過し老朽化が進み、そろそろ改築をしなければと思ったのは2023年9月のまだ暑い日でした。いま思えば当時の架け替えに携わった方が徐々に少なくなり、まだ経験と継承が可能なうちに意欲のある会員と共に新しい丸太橋の架かる姿が見たかったのがこの丸太橋改築プロジェクトを実施するきっかけでした。

ともあれ、完成までの経過を分かり易く記録に残すことが私の役割と感じ着手しました。通常は計画や経過、写真記録が残ることは少ないのですが今回は記録に残すことも目的でしたので写真や計画等が沢山ありますので記録は時系列的に書いておきます。

まずは丸太橋の材探しです。前回の2015年の時は高尾周辺で手配ができずに他の場所から調達しています。板当てで適当な材が見つかりましたが小下沢ベースまで運搬する労力負担が大きく、近場で調達できないかと、ふと小下沢ベース広場から見上げるとすぐそこに適当な材が5本ほど目の前に生育していたのです。東京材木商協同組合管理の植栽地でしたが交渉した結果、先方の理事会の認可も受け快く提供をしていただけ、この課題が10月末に解決しました。



11月4日(土)

作業者：6名

丸太橋の材の選木・伐倒、皮むき、保管、横木等の準備

- 丸太橋の材は、直径15～20cm、長さ3.7m、5本
- 今回は短期間での丸太橋作成で乾燥時間を考慮しないで実施
- 橋のステップの横木8本は幅9cm 厚さ4cm 長さ80cmで計画



丸太材選木・伐倒



皮むき

11月9日(木)

作業者：6名

完成時のシミュレーション：組立確認と強度確認、防虫防腐剤の二度塗り

[留意点] 防虫防腐剤の二度塗りとは短期間でも乾燥させてから行うこと



組立確認、強度確認



防虫防腐剤塗布

11月16日(木)

作業者：3名

防虫防腐剤三度目塗布、丸太橋の土台確認、敷石確保、設置計画修正

11月18日(土)

作業者：7名

旧丸太橋の撤去、丸太橋土台の改築修正と新丸太橋の設置、旧丸太橋の解体

[留意点] 丸太橋の土台での敷石の強度確認、橋の水平設置の再確認が必須

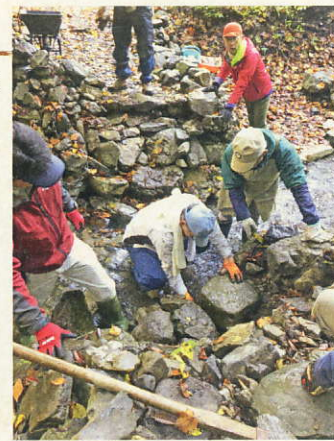
旧丸太橋



撤去



土台改築



新丸太橋設置



横木取付



旧丸太橋解体



新丸太橋完成!

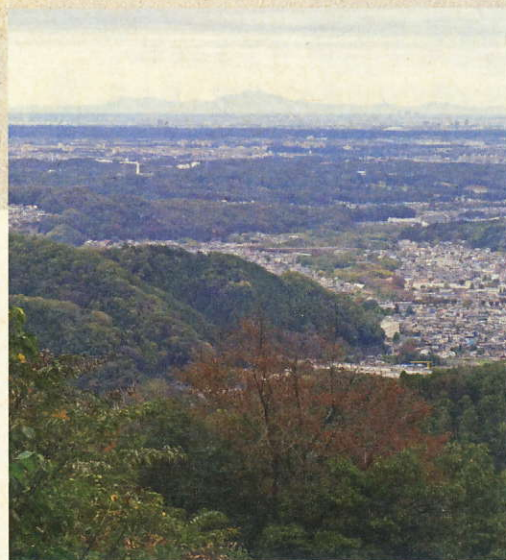
新丸太橋改築プロジェクトは11月4日から18日の15日間で12名の協力を得て4回作業して、延べ22名の参加で完成しました。改めてご協力いただいた、藤原さん・早川さん・大森さん・仲さん・森中さん・青木さん・小林さん・宮森さん・斎藤さん・川久保さん・大島さんに御礼いたします。また、丸太橋の材を快く提供頂いた「東京材木商協同組合」の関係者の皆様に誌上で御礼申し上げます。

11・12月活動日記

●高尾の森の片隅で栽培しているシイタケが収穫時期を迎え、直径15cmほどのシイタケがたあ〜くさん収穫できました。

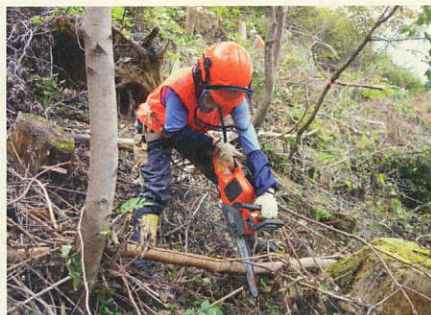
●板当の作業場所からは、前日の雨で空気が澄んでいたのか？曇りでしたが一日中筑波山がよお〜く見えていました。

●1年の最後はやはり忘年会。参加者は50人超え！皆さんお疲れ様でした。



遠くに見えるは筑波山

久々に登場！C班



お疲れ様でしたあ〜



もくじ

2024年 会の活性化に向けて…02
日本山岳会 自然保護全国集会…02
都有林プロジェクトの5年…03
小下沢丸太橋改築プロジェクトの記録…04
11・12月活動日記…06
1月活動日記…07
小下沢の森の樹木たち…08
「高尾の森と生き物たち展」開催…09
美林見学会報告…10
久しぶりの「紅葉鑑賞会」…11
新会員紹介…11
事務局からのお知らせ…12

オレたち、なかよし



カンパ〜！



2024 1月活動日記

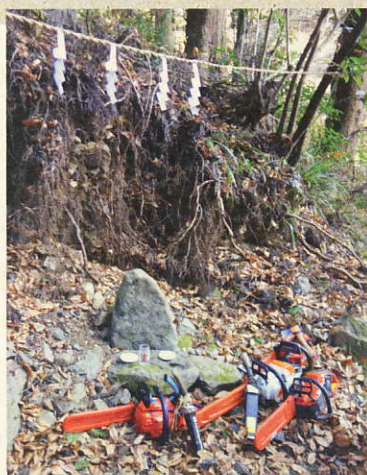
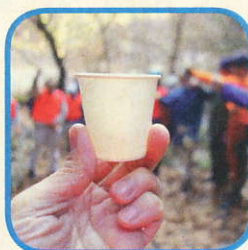
●新年最初の定例作業、まずは恒例 山の神への安全祈願から始まります。

●板当では4月の植樹祭を控え巻き落とし作業が中心に行われ、昨年8月頃はジャングルのような荒れ地で先がまったく見えませんでした、だいぶ見通しがきくようになりました。

安全祈願



御神酒をいただいて



さすがに1月は寒さが身に染みるねえ～



今日の作業は……、話し聞いてますか～？



巻き落とし作業



日の当たるところはポカポカ陽気



さて、これは何の巣箱でしょう

ようやく全体が見渡せるように



小下沢の森の

連載 最終回

樹木たち

小下沢国有林で15年間植樹し育ててきた約40種の落葉広葉樹の苗木の半数について、樹木の特性と生育状況を4回にわたり写真を用いて解説してきました。これらの苗木を植樹し保育するにあたり、同じ樹種でも植える場所によって生存率や成長度は異なり、なかでも適地適木は重要な要件となります。最終回を締めるにあたり、植樹を行う際に配慮すべき点について触れることにします。

1 樹木特性と生育状況

(カッコ内は植樹本数)

16

アサダの幹
(自生木)

アサダ(60)

【カバノキ科】

- ◆落葉広葉樹林で見られる15～20mの高木
- ◆樹皮は特徴的で逆むけ状に薄くはがれて反り返る
- ◆材は固くて耐久性があり、磨けば光沢を生ずるため重宝される
- ◆上の横道の初年度植栽地手前に立派な自生木あり



アサダの枝

17

キハダ(120)【ミカン科】

- ◆山地で湿り気のある林内に育つ
- ◆樹皮はコルク層が発達しコルクの木といわれる
- ◆樹皮は淡黄灰色で薬効があり、健胃薬、消炎薬として用いられる
- ◆球果はミカン科特有の芳香があり、ヒヨドリ、ツグミ、イカル、アカハラなどの餌になる

キハダの樹皮
(01年度植栽地)
キハダ酒

18

棘だらけのハリギリの幼木
(01年度植栽地)

ハリギリ(60)【ウコギ科】

- ◆山地に広く生息し20～25mになる。小下沢にも自然木あり
- ◆小さいころには対陰性が高いが、生長とともに数を減らす、すなわち同種の個体は離れて生育する性質(=種の多様性を維持するメカニズム)を持つ
- ◆樹皮に棘があり、09植栽地でタラノキと間違えて？誤伐された経緯あり

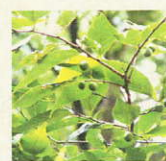


ハリギリの巨木(いろはの森)

19

ムクノキ
(01年度植栽地)ムクノキ(80)
【ニレ科】

- ◆関東地方以西に分布し、シイ、カシ帯からブナ帯の雑木林に生える
- ◆丘陵地から低地に自生し公園樹としても用いられる
- ◆黒く熟した果実は干し柿のようにおいしく、オナガ、キジバト、ムクムクノキの実(*1)ドリ、ヒヨドリ、ツグミ等の餌



ムクノキの実(*1)

20

ヤマゲリ(870)

【ブナ科】



ヤマゲリ(01年度植栽地)

- ◆生長は早いがシロスジカミキリなどの害虫がつきやすく、中位木位で枯死しやすい
- ◆果実は小動物の餌となるため大切に育てたい
- ◆材は固く、これまでは枕木や建築材に用いられてきた



ヤマゲリの花(*2)

2 樹適地適木と生長阻害要因対策

植樹した苗木を早く大きく、1本でも多く育てるために、15年間に18,000本の苗木を植樹し、保育管理をして得られたノウハウは次のとおりであります。

- ◆**日照** 植物にとって不可欠の生育要件です。小下沢国有林では北斜面の植栽地が多く、日照にハンディキャップがあります。植栽地の日照時間と苗木の陰樹、陽樹を配慮した植樹が必要です。
- ◆**土壌** 高尾山系はガレ場が多く植樹に不向きの場所があります。このようなところでも養生すれば活着・生長する樹種があります。
- ◆**水分** オニグルミやサワグルミなど沢に近い場所を好む樹種があります。



- ◆**下刈り** 植樹した苗木は、周りの雑草や灌木の生長が早いため放置すると被圧され枯死します。苗木がそれらの背丈を超えるまで毎年下刈りが必須です。
- ◆**害虫・害獣対策** ミズメ、コナラ、ヤマグリは害虫が付きやすく、対策が必要です。苗木を食害するシカには植樹の段階で対策が不可欠です。

以上、紙面を借りて樹木の特性と植樹・保育管理のポイントの説明をしてきました。なかなか理解し難いところは現場で講習会を行い補いたいと思います。

「高尾の森と生き物たち展」を開催

小木曾裕子

11月18日から26日までの9日間、高尾599ミュージアムにて「高尾の森と生き物たち展」を開催しました。今回からは2階の展示会場に加え、1階の玄関横にて土日祝日の午後にヒノキの丸太切りを実施したところ、毎回順番待ちの列ができるほど大人気でした。切った後は会員がベルトサンダーでスベスベに仕上げて手渡したところ皆さんヒノキの香りと手触りに大満足！体験をされた方々には2階の展示会場へ誘導し会の活動を紹介。森づくりに参加を検討したいという方も数名いらっしゃいました。

展示会場では最新の動物カメラの映像を上映し、高尾の森の豊かな生き物たちをご覧いただきました。ま



た積み木コーナーではシートいっばいに広げた積み木の中で子供たちがクリエイティブなオブジェを創作。パズルであそぼうコーナーでは親子だけではなく若者たちも時間を忘れてチャレンジしていました。木工品コーナーでは郷土玩具のパタパタ等にも興味を持っていただけました。



今回は3月25日から31日に開催する予定です。会員の皆さんも是非友人やご家族を誘ってご来場ください。お時間があればアテンドへのご協力をお願いいたします。



「ブナの林」・「森は海の恋人」を訪ねて

松川征夫

美林見学会報告



船形山ブナ 商人沼

船形山ブナ 鍋越峠



気仙沼・森は海の恋人
舞根森里海



秋晴れに恵まれた11月8～9日、相澤リーダーはじめ合計8名で宮城県的美林見学に行ってきましたので報告します。

◆「ブナの森」を守って38年

「船形山のブナを守る会」代表 小関俊夫氏 他2名の方々に、ブナ林を「商人沼」まで案内していただきました。ここは船形山を中心にして山々の広さが約4万haあり、その内約2万haをブナの原生林が占める国有林です。(参考：白神山地のブナ林は1万7千ha)

大正10年頃、燃料にするため船形山のブナ林4分の3を失いましたが、110年経過し実生から育った2次林が現在の状況です。見事に成長した2次林は、自信をもって専門家を案内できるほどのようです。守る会の皆さんは定期的にパトロールし、廃棄ゴミや倒木等の整備に汗を流し、下流の動植物や田畑に多くの恵みをもたらしていました。

まさに「美林見学」に相応しいブナ林でした。

◆「森は海の恋人」

翌日、気仙沼市唐桑町東舞根にある「舞根森里海研究所」を訪ね、事務局の白幡さんの説明を伺った。気仙沼の波静かな入り江はカキやホタテの養殖に適している。しかし昭和40年代から50年代にかけて気仙沼湾の環境が悪化、赤潮が発生して港は真っ赤なペンキを流したような赤い海となったようです。育ったカ



キも「血ガキ」と言われ廃棄処分される状況となった。カキの漁場は川が海に注ぐ汽水域に形成されています。川が運ぶ森の養分がカキの餌となる植物プランクトンを育てているからです。

気仙沼の漁師たちは川の流域に暮す人々と価値観を共有しなければ豊かな海は帰ってこないことを悟り、室根山と矢越山が気仙沼湾に注ぎこまれる大川の水源となっているため、平成元年第一回植樹祭が湾から25キロ上流の室根山で実施された。5年目からは矢越山にて植樹が続けられている。植樹祭は毎年6月に行われ、一関市・気仙沼市をはじめ全国から1500人参加。これまでにおよそ44種5万本と大規模に行われている。研究所での質疑応答を終え矢越山の植樹現場も見せていただいた。

この見学会では、リーダーの相澤さんはじめ参加された皆さんのおかげで新鮮な感動と楽しいひと時を過ごすことができました。お礼申し上げます。



久しぶりの「紅葉鑑賞会」楽しみました！

相川正

11月25日(土)、5年ぶりの紅葉鑑賞会が開催されました。参加者は法人会員含め80名ほど、たくさんの方が集まりました。

開会式の後、早速小グループに分かれて植樹地散策に向けて出発です。ザリクボ滝までは次々に現れる綺麗な紅葉樹の下を登って行きます。そして滝から先の急登を登り切り水平道に出ると、突然対面に赤・黄・橙・茶・緑のパッチワークと紅葉のグラデーションの見事な景色が開けます。その後は巨木の森へ。ここではお子様連れのご家族が巨大な倒木によじ登って大ハシャギ。帰りはワイワイ賑やかに紅葉の山や滝を見ながら下ってきました。

ベースに到着し待望の昼食です。皆、良い加減に歩き疲れてお腹もペコペコ！ 集合写真撮影もそこそこに懇親会会場へ。まずはたくさん準備された飲み物で喉を潤し、会員の皆さんで準備した数々の料理を堪能。特にたっぷり盛ら



れた色とりどりのつきたての柔らかいお餅は最高でした。そして冷えた身体に豚汁の温かさが染み渡ります。お腹が満たされると、次は普段触れる機会のないチェーンソーで木を切る体験や、山の作業車に試乗するなど、法人会員の皆様やお子様方は貴重な経験をされたと思います。

5年ぶりの紅葉鑑賞会、綺麗な景色とお腹一杯の御馳走と、秋の一日を心から楽しみました。関係者の皆様のご尽力に感謝、また来年を楽しみにしています。



大木朱美です

森の保全の活動をしたいと思い

みなさま、初めまして。私は福島県の出身で、いつも部屋の窓から山が見えていました。そのせいか、自然に触れると元気になります。

幹事のおひとりから活動について伺いし、私も森の保全の活動をしたいと思い入会させていただきました。本格的な登山経験はありません。現在は高尾山に年数回、熊野古道歩きを年一回楽しんでいます。

体験入会の際に鉋と鋸をほんのちょっと使ってヘロヘロになったような初心者ですが、少しずつお役に立てるようになっていければと思っています。何よりも先輩の皆さんのパワフルさに圧倒されました。みなさまと森から元気をいただきながら、いろいろと教えていただきながら活動に参加していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

新 会員紹介

清水康司です

自然にふれ楽しく活動して行けたら

高尾の森づくりの会の会員である同郷の友から「ボランティアをやってる」と聞き、一度参加してみようかなと思いこの機会をいただきました。

ボランティアと聞くとこれまでなかなか敷居が高く感じ、参加する事なく過ごしていましたが、古くからの友人のおかげでこの会を知る事が出来ました。もともと登山は好きで、たまに登ったりしていたので、高尾で自然にふれながら森を残す作業にたずさわれる事に喜びを感じます。

皆様から元気をいただき楽しく活動して行けたらと思いますので、宜しくお願いいたします。



活動記録

11/3-5	秋のTAKAO599祭 森の学校
11/8,9	美林見学会 (奥羽山脈・鍋越峠、気仙沼・矢越山、8名)
11/11	定例作業 (会員59名)
11/18-26	高尾599ミュージアム「高尾の森と生き物たち展」 (会員延べ56名、来場者1591名丸太切り体験228名)
11/25	紅葉鑑賞会 (会員43名、法人34名)
12/9	定例作業 (会員55名、法人18名、体験5名) 忘年会 (会員53名)
12/17	森の研修 (樹種選定・植樹方法、8名)
1/13	定例作業 (会員55名、法人18名、体験5名)

2024年度 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。

1. 納入には郵便振替をご利用ください。

会報92号に同封した「ゆうちょ銀行振込取扱票」にて納入ください。
現金振込の際は、手数料(¥110)は振込者負担になります。
ゆうちょ銀行カード、ATM振込時は無料(振込料金は会が負担)です。

- 口座記号番号 00160-3-688239
- 加入者名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

2. 他の金融機関からの振込の場合

- 銀行名 ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュー) 店
- 当座預 口座番号 0688239
- 口座名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

3. 納入期日 3月22日(金)

3月末に一括ボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、期日までの納入にご協力をお願い致します。

4. 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
賛助会員	3,000円	なし	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注1: 他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を振込票に記入して連絡ください。重複して加入する必要はありません。

注2: 機械作業者登録をしている方で、今後この登録を継続しない方も、同様にその旨を振込票に記入してお知らせください。

活動実績と予定

2/10	定例作業
3/2	森の研修(上の横道と植栽地)
3/9	定例作業
3/25-31	高尾599ミュージアム展示
4/13	定例作業
4/14	植樹祭
4/21	京王親子森林体験スクール

会員動向

入会: ようこそ

池田桂さん、和泉昭宏さん、藤島英一さん、
三尾幸吉郎さん、若林勝昭さん

退会: お疲れ様でした

小松信郎さん

高尾の森に
ムササビの巣箱を設置

昨年、動物カメラで初めてムササビの映像を捉え、年末に巣箱を設置しました。ムササビが巣箱を使ってくれることを願います。

幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

11月	
協議事項	2024年春 植樹祭の開催について、他
報告事項	一丁平整備リーダーの交代、美林見学会予定、紅葉鑑賞会実施要綱、他
12月	
協議事項	12月の定例作業予定について
報告事項	小下沢丸太橋架け替え工事、紅葉鑑賞会、森の研修会、他
1月	
協議事項	1月の定例作業予定について
報告事項	板当植栽地の計画と見通し、京王親子森林教室、都府林作業領域の調整、他

編集後記



現在の作業エリアの「板当」は今までにない手ごわい場所で、個人的には4月の植樹祭は難しいかなと思っていましたが、最近の状況を見るとできるんじゃないかと思えるようになってきました。会員パワーのすごさを感じます。ところで、編集委員は3年目に突入。今後も皆さんのご協力、よろしく願いいたします。(大島徹)

